

e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2014

月刊情報誌

No.12

発行

特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
北海道帯広市西20条北2丁目
20-4 東洋内
TEL 0155-58-1129
FAX 0155-58-1130

十勝帯広は、チラチラ雪が降ってきました。朝の気温は氷点下に突入。まだ路上の氷は、薄いですがしっかり張っていました。街路樹も葉が落ち、ナナカマドの赤い実だけがたわわになっています。冬の蓄えで忙しく動き回っていたエゾリスも見かけなくなりましたが、野鳥の群れが山から里に、残り少なくなった木の実を求め、街の木々も騒がしくなっています。先日、黒いタキシードを着た赤い帽子のアカゲラ(キツツキの一種)が私の庭にやってきました。今年作ったパーゴラ(ぶどう棚)の柱をツツキまくり穴だらけ。虫食いの古材を使ったのが原因ですが、よく上空からわかったこと、あの野鳥がここまで来るとは…と感心したり、パーゴラの崩壊が心配だったり。

さて、十勝の農家は、最終のビート(砂糖ダイコン)やナガイモの収穫作業。これが終わると根雪を待ち、来春まで何もない北海道になります。今年の畜産は、大きな事件もなく(ゴメンナサイPEDがありました)どうにか乗り越えそうな矢先、総選挙と騒がしい話になりました。選挙の年は肉の売れ行きが落ちるんだよね…と心配の種が残るこの頃です。



10月の当会の資源循環型シンポジウムは盛況のうちに終わりました。飼料米の取り組みは、課題山積ですが遺り甲斐はありますね。

NEWSばか読み

- 十勝JAネットワーク 共通ブランド化「十勝ごちそう共和国」発足
11/13:いっそ独立
- 関西電力 老朽原発 再稼働申請へ
11/13:大阪府内に原発建設運動を起こそう
- ヨーク堂 スーパー出店計画を縮小
11/13:消費者庶民の実態反映
- 米中 温暖化交渉削減で前進 11/13:大団主導 日本孤立
- 東芝 植物工場を公開 11/13:食物生産が企業ベース化に
- 市況 食用油原料値上がり 大豆最高値
11/13:買っている裏は誰
- 経産省 原発再稼働の自治体に交付金 11/14:金で釣られるか
- 牛丼大手 牛肉原料対応で収益格差
11/14:いつまで続く大衆牛丼

- 政府 新米下落に緩和策 11/14:減反政策のサキドリ
- 岩手農研センター 養豚で飼料米75%給与
11/14:がんばるな岩手県
- 上場企業 最高益に迫る 11/15:地方・中小との格差広がるばかり
- 日豪 アジアにインフラ整備基金設立へ
11/15:中国が先行、遅いかも
- 消費税10% 延期へ 11/15:庶民は物価高で苦しんでいるよ
- ユーロ圏 低成長から抜け出せず 11/15:右傾化の風潮が漂う
- すかいらーく2割增收 高価格商品好調 11/15:外食が生活に定着
- 小型犬遺棄 全国で相次ぐ 11/16:人間勝手
- フランス 和食人気裾広がる
11/16:フレンチ和牛よりサレールの赤身ステーキ
- 農水省 PED5%鎮静化できず 11/16:ウイルスとの戦いは根深い
- 10月国際相場 ロシア禁輸で乳製品続落
11/17:政治情勢で相場が変わる
- GDP 2期連続でマイナス 11/18:アベノミクス効果

東京直近NEWS (11/26 Shi-REPORT)

ホルス

全国的に出荷頭数が少ないことで、相場上昇が見込まれていたが予想を上回る上げ幅となっている。特にホルスは頭数減による大阪の高値に引きずられ、東京市場でもB2が900円台後半までつける場面も多々、今後さらに上昇する懸念も出ている。11月後半の勤労感謝の日の連休からは、12月を見据えた年末商戦の前哨戦ともなりさらに上昇すると思われる。同時に出荷頭数が減少する中で、カット場の稼働率確保のため無理をしてでも枝肉を購買することも必要でこの要素も枝肉価格を引き上げていると思われる。上位部位の問合せは日々増加しており販売単価は需給に合わせて上昇するも、数量確保が不透明と末端も特売打てない。正肉単価は絶対数量の不足から、ある程度枝肉単価に見合った価格での商流になりつつあるが、それ以上に枝高が先行模様。

経産牛

相場は相変わらず高値継続。夏場の天井状況からはやや緩むも尚、高値。生乳の不足影響と、初産には交雑以上の種付け率の寄与大きく、当面頭数の回復は見込めない。相場の天井からは脱した様子で、地方市場ではタイミング次第で割安な相場も発生している。但し一過性のものと捉え、玉不足は解消されておらず、販売価格の継続的値上げ必要。輸入物のコストアップも日々勢い強くなっている環境から交渉を継続。経産牛パーションの用途、整形も徐々に変化してきている。整形度合を下げたノーマルに近い整形にて、価格を抑えた国産牛肉パーションとして今までにない商圈から声がかかる場面も。経産牛も輸入物も数量確保が課題。

活動のお知らせ

- 10/30(木)~31(金) 富良野市・富良野文化会館 北海道肉牛研究大会・総会
道産牛肉の市場拡大に向けて…牛肉輸出の取り組み・海外事情:
- 1月16日(金) 新得 道畜産試験場 畜産技術研修会・理事会
- 1月中旬 ポテトピール検討会 カルビーポテト㈱帯広工場

左先生の畜産学研究NEWS

11/21に衆議院が解散され、総選挙に突入12/14投票となりました。農業生産者の気掛かりなTPP交渉の行方は棚上げです。今回の選挙はアベノミクスの評価が争点ですが、本来は脇役の金融緩和と将来につけての財政出動が先行し、肝心の成長戦略は道半ば未完の状態です。円安と株価高騰だけで政権の評価は難しいのです。予想外のGDPのマイナス成長で「選挙をやるなら今のうち」と一説には「念のため解散」とか…これに使われる税金は600億円とも700億円とも言われています。国民の幸せを願う真心が政治の側からは伝わってこない。と新聞のコラムで嘆いています。国民の政治不信が一層募ります。今年のe-びーふNewsも12号です。前号の後に開催された研究会などの紹介をします。次号はその後に情報が入手されたものや十勝の一年の畜産統計などを振り返ってみたいと思います。

1.10.30-31 第19回北海道肉牛研究会大会(北海道富良野市・富良野文化会館)

全道各地を巡り、現地の肉牛農家を訪ねるこの研究会は今年JAふらの、上川総合振興局、上川生産連の後援・協力で行われ、テーマは「道産牛肉の市場拡大に向けて」、参加者135名。農畜産振興機構の高橋博人氏の基調講演「対日牛肉輸出国の生産・輸出状況」と北海道酪畜協会 岸大輔氏、ミートコンパニオンの植村光一郎氏、ふらの大地和牛の愛澤忠氏による話題提供と総合討論です。基調講演は、干飼で飼養頭数が減った輸出国の

豪州、輸入が増えた牛肉消費国でもある米国、まだ課題はあるものの潜在力のあるブラジルや生産と消費の拡大を続ける中国の肉牛飼養事情などの解説です。話題提供は、豪州の「WAGYU」生産の実態や地域ブランドよりオールジャパンとして進めたい和牛輸出戦略の現状と課題、地元ブランドの「ふらの大地和牛」生産の取組についての解説がありました。

2. 11.1 平成26年度 家畜栄養生理研究会秋季集談会(大分県日田市・亀山亭ホテル)

今回の集談会は高温や暑熱がキーワードです。世界的な地球温暖化傾向は北海道においても特に乳牛で影響が指摘されています。6課題中、牛と豚の話題の一部を掲載します。

1. 「栄養管理による高温環境下の泌乳生産性改善に関する研究」(独)九沖農研セターハの話題提供では、泌乳牛では高温ストレスに抗酸化性脂溶性Vt添加などの酸化ストレス対策や飼料摂取量低下対策としてのルーメンバイパス性パルミチン酸をTMR処理した高エネルギー飼料の給与が有効で乳量が+15%とされています。

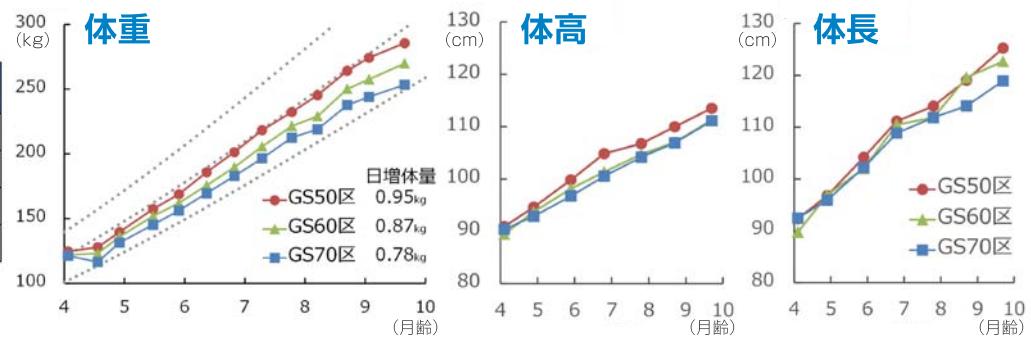
2. 「飼料用米・大麦および茶葉を利用した肥育豚の暑熱対策技術に関する研究」佐賀県畜試の話題提供では、暑熱による肥育豚の増体量減少は飼料摂取量の低下によるリジン不足と思われ、リジンの多い飼料用玄米と機能性成分のがわいを含んだ茶葉と大麦で、背脂肪厚抑制効果と枝肉成績向上が確認されました。

道総研 畜産試験場NEWS

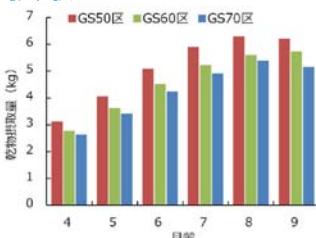
GSの給与割合の影響

	GS50区 (对照区)	GS60区 (試験区①)	GS70区 (試験区②)	
粗濃比	50:50	60:40	70:30	
混合割合 (%)	GS	50	60	70
育成用 配合飼料	36	33	30	
圧ん とうもろこし	14	7	—	

飼料中のCP含量が16%になるように設定



摂取量



GSを70%まで高めると

NDF割合の増加により
摂取量の低下

CP・TDN摂取量が低下し
増体量が低下



422A (9ヶ月齢) | 237kg

肥育農家で発育調査を継続



422A (14ヶ月齢) | 369kg

GSはどうやって手に入る?



道内の繁殖農家(H24)

